

【本日の説教要旨】

「新しい神殿の栄光」

ハガイ 2:1-9

ルカ 21:5-6

エルサレムの神殿はイスラエルにとって、イスラエル存立の根拠であり、象徴であり、希望でした。その証拠を、今日のエルサレムに現存する、いわゆる「嘆きの壁」に見ることができます。この壁は70年ローマ軍によって破壊されたエルサレム神殿の残骸の一部＝西壁です。いまでも、世界中から巡礼者がこの地を訪れ、現存する最も神聖な場所に立って祈る人があとを絶ちません。

エルサレムの神殿は歴史のなかで三回建設され、そのあと破壊されました。有名なのが最初に建設されたソロモンの神殿です。周辺諸国に比べるもののない壮大で華麗、ドラマチックな神殿でした。バビロニア軍に破壊されるまで、400年にわたってダビデ王朝の権勢とユダヤの人の宗教的幻を導いていました。

この神殿で注目すべきは、後に再建された神殿のモデルともなったその間取りと構造です。間取りは外庭、聖所、至聖所と三つに区分されました。この様式はカナン地方のどこにおいても用いられていた「豊穡の神＝バールの神殿」の構造でした。重要なことはこのような設計は、設計の根底に「聖なるものに近づく階級的階段」の思想があることです。「至聖所」に入れるのは、王に忠誠を誓う祭司階級の頂点に立つ大祭司が一年に一度のみでした。ピラミッドのすそ野が広がるほど階級は下がりました。もう一つはその壮さ、壮麗さです。二つとも、人間が願い求め誇るもので、出エジプトを導いた神ヤハウェの支配とは相容れないものでした。

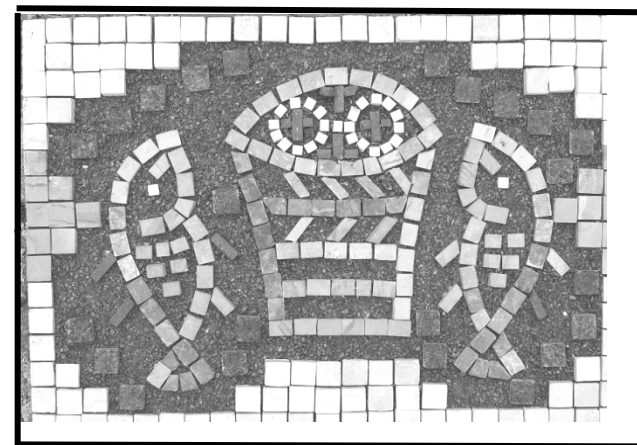
イエスの時代の神殿は、バビロン捕囚から帰った人々が再建した第二神殿に、ヘロデ王が大規模な改築・改修を施したものです。ヘロデの神殿とも呼ばれました。外庭は異邦人(外国人)、続いて婦人の庭、イスラエル(男子)の庭、聖所、至聖所に分けられていました。この区域を犯す者は死罪でした。イエスの一行がエルサレムを訪れた際、弟子が「先生、なんと見事な石、なんと立派な建物でしょう」と誇らしげに感嘆しました。イエスが、「大きな建物に見とれているのか。ここに積み上がった石は、一つ残らず崩れ落ちる」と予告したのはこの神殿でした(ルカ 21:5-6)。

さらに、イエスが十字架上で息を引き取られた時、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂けたのは、至聖所と聖所を隔てる幕でした。イエスは、人や場所を聖と汚れに分け隔てる神殿そのものを拒否しました。それは人と人との分け隔てを作り出すところだからです。神が建てられた新しい神殿は、豪勢できらびやかな建物ではなく、あなたがたです。神がイエスによって集められた生きた人間の集まりです「あなたがたは神の神殿であり、神の霊が自分の内に住んでいることを知らないのですか。...あなたがたはその神殿です。(コリントー 3:16-17)。あなたがたが新しい神殿の栄光です。“恐れるな!!”

日本キリスト教団浦河教会

週報

No.44 2023年1月29日



教会創立 1956年

〒057-0022

北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

電話 (FAX) 0146-22-2904

牧師 五味 一

電話 (FAX) 0146-26-3043

2023年1月29日 (No44)

主 日 礼 拝

司会：吉田公子 奏楽：松村宣恵

前 奏 奏楽者
 讃美歌 85 (二回) 一 同
 祈り 司会者
 聖書 ハガイ書2章1~9節 (旧約聖書1477頁)
 ルカ福音書21章5~6節 (新約聖書151頁) 司会者
 讃美歌 7 一 同
 説教 「新しい神殿の栄光」 五味 一 牧 師
 讃美歌 390 一 同
 献金と感謝の祈り 一 同
 主の祈り 62 一 同
 頌栄 キリストの平和が (1・5) 一 同
 祝福 一 同
 報告 一 同

新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【本日の集会】

◇主日礼拝 14時 礼拝堂

◇牧師招聘について教会懇談会

【今週の集会】

◇一緒に聖書を読み祈る会

・2月1日(水) 午後7時

アモス書8章1~8節

(旧約聖書1439頁)

讃美歌 217、413

礼拝堂

【次週の予定】

◇主日礼拝

・2月5日(日) 午後2時

・聖書 箴言3章1~8節

(旧約聖書993頁)

ルカ福音書8章4~15節

(新約聖書118頁)

・説教 「慈しみとまことが共にいる」

五味 一 牧 師

・讃美歌 8、412

【来週の礼拝司会者を決めましょう】

- ① 和田智子 ② 広瀬秀幸 ③ 吉田公子 ④ 伊藤知之
- ⑤ 山根耕平 ⑥ 岸澤恵美 ⑦ 高崎晋 ⑧ 山本潔
- ⑨ 早坂潔 ⑩ 荻野仁

【集会統計】

集会名	参加者	献金
主日礼拝 (1月22日)	18名 (子1名)	7,074円
祈禱会 (1月25日)	6名	

♪本日の讃美歌

♪ 讃美歌7 「ほめたたえよ、力強き主を」。作詞はドイツの改革派教会付属ラテン語学校の校長ヨアヒム・ネアンダー (1650-80)。ネアンダーはしばしば郊外の美しい谷に出かけて祈りと詩作をしました。彼の愛した谷は後にネアンダーの谷と呼ばれるようになり、やがてそこから原人の化石が発見されて「ネアンデルタールの人」—ネアンデルタール人と呼ばれました。彼は信仰の内面性を強調し、すべてに先立つ神の恵みを讃美する、みずみずしい信仰の歌を作りました。作曲はヨハン・クリューガー編纂の讃美歌集に収められていた古い民謡が元になっているようです。

♪ 讃美歌390 「主は教会の基となり」。代表的な英語の讃美歌で、英語圏の現代讃美歌集には必ずと言ってよいほど収録されています。イギリス国教会の主教サミュエル・J・ストーン (1839-1900) の作品です。詞はキリスト教信仰の基本的な教理を会衆に教えるため、信仰告白の「教会はキリストの体にして、恵みにより召されたる者の集いなり」に焦点を合わせて、教会とは何かを歌っています。

曲はサミュエル・S・ウエスレー(1810-76)は、メソジスト教会の創始者チャールズ・ウエスレーの孫。16歳からイギリス国教会の各地の教会でオルガニストを歴任し、当時イギリス随一のオルガニストとされていました。

頌栄 キリストの平和が

1. キリストのへいわが わたしたちのころのすみずみにまで ゆきわたりますように
5. キリストのゆるしが わたしたちのころのすみずみにまで ゆきわたりますように